

農業委員会等に関する法律(昭和26年法律第88号)第9条第2項及び同法施行規則(昭和26年農林省令第23号)第6条第1項第2号の規定に基づき、受付期間の終了時点(令和7年12月25日時点)における吉岡町農業委員の推薦及び公募状況を以下のとおり公表します。

【受付人数】

	区分	人数	うち認定農業者等の数
1	推薦を受けた者 (個人推薦又は法人・団体推薦)		
2	自ら応募したもの	8人	5人
	合計	8人	5人

【推薦・公募の状況】

(1) 推薦による応募(個人推薦又は法人・団体推薦)

番号	被推薦者(推薦を受ける者)							推薦者 (推薦する者)									
	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営 の状況	認定農業者等 の区分	氏名 (又は名称)	(個人)			(法人・団体)			農地利用最 適化推進委 員への推薦 又は応募の 状況	推薦理由
					年月日	職名・役職等				性別	年齢	職業	代表者又 は管理人 の氏名	目的			

(2) 自ら応募

番号	氏名	性別	年齢	職業	経歴		農業経営の状況	認定農業者等 の区分	農地利用最適化推 進委員への推薦又 は応募の状況	応募理由				
					年月日	職名・役職等								
1	永田 雅信	男性	67	農業	H29.4.27~	吉岡町農業委員会長 職務代理	プロイラー年間23万羽	認定農業者	なし	全国でも注目される人口増加の吉岡町。その中での農業のあり方、開発のあり方が問題になっています。私は農家の立場に立って、今後も吉岡町がより発展できるよう農業委員として努力していきたいと思っています。農家の高齢化が進み、今後より多くの耕作できない農地が増える事が予想されます。農業委員会を通じて、農地の貸し借りがより簡単に安全にできるよう努力し、吉岡町の農業の発展をよりすすめたいと思います。				
2	小林 洋一	男性	61	農業	R5.4.27~ R7.5.12~	吉岡町農業委員 吉岡町認定農業者協 議会長	いちご施設ハウス25a さつまいも(加工用)20a	認定農業者	なし	行政と地域のパイプ役として、地域農業の発展に貢献したい。				
3	佐藤 康之	男性	56	農業	R5.4.27~	吉岡町農業委員	150a(ブドウ・甘藷・水稻)	認定農業者	なし	近年、農業者の減少や高齢化が進み、荒廃する田畠を目の当たりにするようになりました。農家の一員として、今後どのような農地利用が必要なのか、開発ばかり加速させてしまつて良いのかなど、慎重に判断し、地域農業の発展さらには町の発展の一助となれればと思い応募しました。				
4	星野 治代	女性	46	農業	R5.4.27~	吉岡町農業委員	米作40a、野菜10a	—	なし	吉岡町の農地を守り、地域の農業基盤づくりに貢献したいという思いから、農業委員に立候補いたしました。農地の適正管理や耕作放棄地の解消など、地域が抱える課題に誠実に取り組み、町の農業の維持に力を尽くしたいと考えております。				

5	石倉 一也	男性	56	税理士	H14.8.30 H19.6.1～ H29.5.31 H29.4.27～	税理士登録 群馬県税理士協同組合理事 吉岡町農業委員	—	—	なし	我々の生活に食べもの(農業)は、欠くことができない。その食べものの60%以上を輸入に頼っているようである。国産の食べものを支える農家(生産者)は、高年齢化等多くの問題をかかえている。私は中立的な立場として、吉岡町の農地利用の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、青年の新規就農・新規参入の促進等の活動を、他の部門とも協力し合いながら行っていきたい。そして、地域農業と吉岡町の産業のより一層の発展に貢献したいと考え、応募しました。
6	大澤 恵里子	女性	59	農業	—	—	甘藷1,300m <sup>2</sup> 、野菜等500m <sup>2</sup>	—	なし	吉岡町の特産、伝統のある“丸干し乾燥芋”的生産・加工販売を通じて、農業の魅力を感じているところです。また、道の駅「物産館かざぐるま」にも野菜等を出荷しており、農業者の高齢化・減退化するなか、地元の野菜を生産することに楽しさを感じております。女性の視点から、まだ農業の経験は浅いですが、地域農業の発展を目指して、何かお役にたてればと考えております。
7	萩原 隆夫	男性	74	農業法人構成員	H29.4.27～	吉岡町農業委員会長	肉用牛250頭、水田6ha	認定農業者	なし	町の農地の利用に最適化を目指す。
8	志塚 淳	男性	40	農業	H29.4.27～	吉岡町農業委員 群馬県農業共済組合 損害評価員	水田3.1ha、畑2.6ha、	認定農業者	なし	これまで3期任期を務める中、町内農業者の離農、規模縮小や農地の転用が加速している状況を目の当たりにしており、この先長く吉岡町で農業を営む青年農業者として憂慮している。担い手の確保は喫緊の課題であり、自身も新規就農した経験から少しでも力添えできるのではないかと思われる。青年農業者の立場で将来の吉岡町の農地あるいは農業と、農地転用を伴う開発の在り方等を判断・提言できる農業委員の重責を担うべく応募に至る。